

子どもの本のひみつ

Vol. 2

題字・イラスト 陣崎草子

言わせて!

2017年11月23日、甲府市のナールホームサロンで、「連続トークイベント 子どもの本のひみつ②」が開催されました。トークゲストの野坂悦子さんと濱野京子さんによる刺激的なお話の中から、ごく一部をご紹介します。



Etsuko Nozaka

嫌なことを嫌と言えずにもやもやした子ども時代を過ごした果てに、オランダで、子どもが大人相手であろうと自分の思ったことをきちんと言う、大人と子どもの関係を対等に描いている本に出会って、**ガツンとやられた。**

(オランダ児童文学の翻訳をはじめたきっかけについて)



Kyouko Hamano

どんな作品でも、児童文学は社会を映し出すもの。子どもたちの生きている姿を切り取ったとき、そこに日本と違う社会が映し出されていて、**問題を考える手がかりになることはたくさんある。**

(翻訳作品の「社会性」について)

もともと児童文学をめざしていたわけではないが、**この分野は「希望」と親和性があるものなので、居心地がよかった。**自分に「児童文学ってこういうもの」というこだわりがなかったから好きなように書けた、ということもある。

(児童文学を書き始めたきっかけについて)

現代の戦争は被害が見えにくい戦争。日本人が将来戦争に関わるとすれば、経済行為として負担する可能性が高いのではないかと。そういうことを考えているうちに、「すべては平和のために」ができた。

(戦争を児童文学で扱うことについて)

この本の共作者(クルド人)はヒロシマのことを知っているけれど、**私たちはまったくクルディスタンの物語を知らない。**それはすごくおかしいことじゃないか。この本を通して、今の世界中の暮らしの手触りを知ることができると思ってる。

(アマンジ・シャクリーとの共作「カワとアにのむすこたち ークルドのおはなしー」について)



日本とは異なる価値観の描かれた作品だからこそ、出せてうれしかった。私たちの**思いこみを壊していくものにこそ意味がある、**というのが編集担当の方の考えで、私も同感。

(フース・コイヤー「いつもいつまでもいっしょに! ポレケのしゃかりき思春期」について)

自分が書こうと思ったテーマではなくても、物語を書くうちに、書きたいことは必ず出てくる。社会的なテーマ、戦争でも災害でも貧困でも格差でも、そういうものを書く場合、テーマありきにならないこと。

一番重要なのは作品の中に豊かな物語があることではないか。

(フィクションの書き手と「伝えたいこと」のかかわりについて)

なぜこういうものを書こうと思うのか。それは**書き手としての欲。**

一方で、書くということ、**誰かを傷つける可能性**があることも、常に念頭に置いて書かなくてはならない。

(『石を抱くエイリアン』について)

日本人の心が内向きかなと感ずることがある。書き手の中にも、翻訳ものは読まないという人がいるが、**翻訳ものは日本にないタイプの作品を知る窓口になるはず。**日本のものがアジアで読まれているのに、アジアのものが日本であまり訳されないことも気になっている。

(児童文学翻訳の今)

子どもにとって世界への「窓」が本だけだった時代もあったが、今はインターネットの発達によって、「海外に行かなくても分かっている」という時代になっている。「この本面白いよ」と、だれかに言われる機会がない子どもの数は増えているのではないかと。

(児童文学翻訳の今)



1959年、東京生まれ。オランダ語と英語を中心とする翻訳家・作家。早稲田大学第一文学部卒。1985年から5年ほどヨーロッパに住む。創作絵本に『カフと七にんのおもむすこたち ークルドのおはなし』(福音館書店)、児童文学作品の翻訳に『第八森の子どもたち』(同)、『みんながそろろう日 モロッコの風のなかで』(すずき出版)、『ぼくとテスの秘密の七日間』(フレーベル館)、『ミスターオレンジ』(朔北社)などがある。JBBYや「紙芝居文化の会」会員として、児童文化に関する国際的な活動も。『おじいちゃん わすれないよ』(金の星社)で、2002年産経児童出版文化賞大賞受賞。

『いつもいつまでもいっしょに! ポレケのしゃかりき思春期』(フース・コイヤー作 福音館書店)

オランダ人のポレケは11歳。しかし、離婚して出て行ったパパはマリファナの取引で逮捕、いっしょに暮らすママは学校の先生とつきあいはじめ、モロッコ系の男の子ミムンは家族からポレケとのつきあいを反対されている。ややこしい問題が次々起こり、泣いたり笑ったり……。それでもくじけず、大人に対しても自分の考えをはっきり言うポレケのたくましい女の子像が魅力。オランダ「金の石筆賞」、ドイツ児童文学賞受賞。



『100時間の夜』(アンナ・ウォルツ作 フレーベル館)

校長先生の父さんが17歳の女の子に何通ものメールを送っていたことが発覚、好奇と悪意に満ちたSNSの飛び交う阿姆斯特ダムから、「私」はひとりニューヨークへ脱出する。しかし、借りる予定だった部屋は詐欺物件。そこに住んでいたわけありの兄妹セスとアビーや、怪我を負っている少年ジムと知り合ったやさき、ニューヨークはハリケーンによる大停電に陥る。水道、電気、ネットもない100時間が、4人をつなげ、それぞれの人生を変えていく。



1956年、熊本生まれ東京育ち。作家。著書に『くりむパン』(くもん出版)、『すべては平和のために』(新日本出版社)、『バンドガール!』(偕成社)、『こつてつて屋』シリーズ(ポプラ文庫ビュアフル)など。絵本翻訳に『はね』(原題『羽毛』曹文軒作/ホジェル・メロ絵)。日本児童文学者協会、JBBY、日本ペンクラブ会員として、イベントの企画なども。『フュージョン』(講談社)で第2回JBBY賞、『トーキョー・クロスロード』(ポプラ社)で第25回坪田譲治文学賞を受賞。

『石を抱くエイリアン』(偕成社)

茨城県の公立中学に通う早乙女市子、通称「姉さん」とその同級生たちの日常を描く。2010年、中学三年生の彼らは、阪神淡路大震災の1995年生まれ。市子に思いを寄せ、「日本一の鉱物学者」になりたいという高浜偉生はじめ、同じ班メンバーのゆるいおしゃべりは、文化祭での展示をめぐって「原発」談義になることも。やがて、年が明け、2011年3月、卒業の時を迎えるが……。雑誌「日本児童文学」連載(2012年)をもとにした長編。



『ソーリ!』(くもん出版)

小学1年のとき、児童保育クラブの七夕の短冊に「そうりたいじんにになりたい」と書いて爆笑された「あたし」こと照葉。以来、その夢を封印してきたが、5年生になり、友だちのお母さんが区議会議員選挙に出たり、家族と国会見学に行ったりと、改めて、社会のしくみに目をひらかれていく。学級委員の選挙や、外国人の子どもたちとの交流など、身近な活動を通して、「政治家」になる夢を問い直す、爽やかな物語。



まごころで行ってみよう!

甲府から湯村温泉へ

東京から近いのになかなか訪ねる機会がなかった甲府。「子どもの本のひみつ」第二回の会場は、甲府駅からバスで八分ほどのナール・ホームサロンでした。甲府市立図書館に面した白い館、ピアノやチェンバロがある天井の高いサロンは、ふだんは演奏に使われる空間です。オーナーでソプラノ歌手の川口聖加さんは、オランダに留学されたことがあり、オランダ陶器のマグカップで出されたお茶に、オランダ語の翻訳家・野坂さんもにっこり。くつろいだ雰囲気の中でトークも弾みました。

その夜は駅からタクシーで十分ほどの湯村温泉に泊まりました。ここにしぼしば泊まったのが太宰治。甲府の女性と結婚して新婚時代を過ごしています。

甲府からバスで一時間、御坂峠の天下茶屋での日々を書いた『富嶽百景』に、のちに妻となる女性と甲府で見合いをしたことが出てきます。この妻、津島美知子が『回想の太宰治』に『御坂峠』と題して天下茶屋を訪ねたことを書いていて、女性側の視線がおもしろいものでした。

『赤毛のアン』を翻訳した村岡花子は甲府で生まれています。育ったのは五歳までですが、二十歳をすぎて山梨英和女学校に英語教師として赴任し、甲府の寄宿舎で暮らしました。ここで初めての本となる『爐邊』を書きます。

村岡恵理の『アンのゆりかご』によると、花子は教える子の家によく招かれ、家族で炉端を囲み、甲州名物のほうとうを大鍋から食べたたりしたそうです。そんな「温かい炉を囲む幸せな家庭の姿」を投影した題に、「子どもと女性のための家庭文学を」という思いを込めたのでしよう。児童文学を志す決意もまた、甲府で生まれたのでした。

児童文学者では安東みきえも甲府の出身です。『迷いクジラの子守歌』のあとがきで、「こころを向いても山」「海とは無縁の場所であつた」せいしか、海は「汚してはいけない神聖な場所という思いがある」と書いています。ならば、『頭のうちどこが悪かつた熊の話』に登場する熊や蛇や牡鹿は、甲府をとりまく山々から生まれたものでしょうか。そして極上のユーモアは、大きな富士を見て育ったためではないか、という気もします。



児文協研究部「連続トークイベント 子どもの本のひみつ」今後の予定

第3回

トークゲスト **ひご・田中 × 目黒 強** 司会 相川美恵子

日時 2018年3月21日(祝) 13時~15時
※希望者は、その後「寺田屋」周辺の散策。

場所 京都文教大学・京都文教短期大学
サテライトキャンパス伏見大手筋

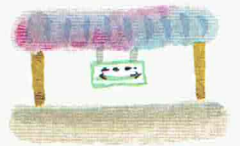
(京都市伏見区東大手町755 近鉄「桃山御陵前」駅・京阪「伏見桃山」駅より徒歩5分)

第4回

トークゲスト **本間ちひろ × 未定** 司会 小林雅子

日時 2018年7月20日(金)
18時頃

場所 関東某所



どなたでも参加できます! ぜひどうぞ。詳細は、日本児童文学者協会HPにて <http://jibunkyo.main.jp/>